

国立保健医療科学院 公開シンポジウム 2025

2026年

日時

1月15日木
13:30~17:15

会場

国立保健医療科学院
別館棟5階 講堂

(Zoomによるウェビナー ハイブリッド開催)

参加
無料

事前登録制

テーマ

災害と公衆衛生—現場のダイナミクスと予防方策—

災害で家屋を失うと、多くの被災者が避難所生活や車中泊を余儀なくされる。避難所の劣悪な衛生環境に精神的ストレスも加わると、健康を害するリスクを著しく高める。こうした避難時の健康問題・生活問題についてはこれまで多くの議論が行われてきた。その上で、フェーズごとの医療救護活動や公衆衛生活動、多職種連携などの改善が図られ、また関連するハンドブックも多数作成されてきている。

しかし、いざ当事者となったとき、これらの分厚いハンドブックや報告書を熟読する余裕などなく、被災者も支援者もその準備不足に戸惑うことも多い。いつ当事者になるかわからない状況下で、中長期にわたる公衆衛生上の課題を軽減するためには今何をすればよいのだろうか。国立保健医療科学院公開シンポジウムでは、こうした課題について議論したい。

司会 福田 敬 (国立保健医療科学院 保健医療経済評価研究センター長 研究委員会副委員長)

プログラム

開会挨拶	浅沼 一成 (国立保健医療科学院 院長)	13:30-13:40
基調講演1	災害時の保健医療福祉活動と被災者支援 尾島 俊之 (国立大学法人浜松医科大学医学部 健康社会医学講座 教授)	13:40-14:20
基調講演2	複合災害時代における我が国の災害時公衆衛生戦略 荒木 裕人 (厚生労働省大臣官房厚生科学課長)	14:20-14:50
	休憩 1	14:50-15:00
講演 1	災害の健康影響とその対策 富尾 淳 (国立保健医療科学院 健康危機管理研究部長)	15:00-15:20
講演 2	災害時における保健師の役割—実践と課題— 奥田 博子 (国立保健医療科学院 統括研究官)	15:20-15:40
講演 3	災害時における栄養・食生活支援と連携強化 清野 富久江 (国立保健医療科学院 生涯健康研究部長)	15:40-16:00
講演 4	災害時における避難生活空間の構造的課題 本間 義規 (国立保健医療科学院 建築・施設管理研究部長)	16:00-16:20
	休憩 2	16:20-16:30
総合討論	モデレーター 富尾 淳 (前出) +パネリスト	16:30-17:10
閉会挨拶	上原 里程 (国立保健医療科学院 次長)	17:10-17:15



National Institute of Public Health
国立保健医療科学院
〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6

お問合せ 総務部研修・業務課 TEL:048-458-6116

申し込み開始

12月中旬

申し込み締切り

2026年1月13日㈫



[参加申し込みはこちらから] <https://www.niph.go.jp/topics-sympo/sympo20260115/>



講演概要紹介

尾島 俊之 国立大学法人浜松医科大学医学部 健康社会医学講座 教授

■災害時の保健医療福祉活動と被災者支援

保健医療福祉調整本部、CSCA（指揮調整、安全衛生、情報伝達、評価）、OODA（みる、わかる、きめる、うごく）ループ、避難所と在宅の被災者支援、NPO・災害ボランティア・住民活動との連携、保健医療福祉の災害対応の全体像などについて概説する。

荒木 裕人 厚生労働省大臣官房厚生科学課長

■複合災害時代における我が国の災害時公衆衛生戦略

令和6年能登半島地震・奥能登豪雨のように、複合的な災害が起こった際にも、それぞれ被災者支援を迅速に行うために、保健医療福祉それぞれの活動チームの連携・強化が必要であり、複合災害も想定しつつ、発生する以前の平時からの保健医療福祉活動チーム間における連携体制構築に向けた取組を始めており、その紹介及び今後の方向性を概説する。

富尾 淳 国立保健医療科学院 健康危機管理研究部長

■災害の健康影響とその対策

大規模災害の発生に伴い懸念されるさまざまな健康課題について、国内外の過去の事例をもとに概説する。また、気候変動の影響や複合災害のリスクなども踏まえた今後の課題と求められる対策について議論する。

奥田 博子 国立保健医療科学院 統括研究官（公衆衛生看護研究分野）

■災害時における保健師の役割－実践と課題－

自然災害や複合災害時に、避難を要する地域住民の健康への影響と、災害後の二次健康被害を予防するために保健師が果たす役割について共有する。

清野 富久江 国立保健医療科学院 生涯健康研究部長

■災害時における栄養・食生活支援と連携強化

大規模災害時の避難所等における栄養・食生活の課題と、管理栄養士等による支援の実際を概説し、関係部局、関係機関等との連携強化に向けた今後の方向性を考察する。

本間 義規 国立保健医療科学院 建築・施設管理研究部長

■災害時における避難生活空間の構造的課題

学校等の避難施設は、本来、生活の場として設計されていない。非常時に生活可能な場に転換し、公衆衛生上の負担を軽減するには、どのような準備が必要なのだろうか。建築環境の視点から、災害時における避難生活空間の構造的課題と具体的方策について考える。

※来院又はオンラインで御参加できない方のために、後日オンデマンドで配信する予定です。

※オンラインで御参加の場合は、Zoomの使用が可能なPC、タブレット、スマートフォンが必要になります。

※講演内容等につきまして、事前の予告なしに変更となる場合があります。